

共立女子大学
共立女子短期大学
全学共通教育情報リテラシー科目プログラム
自己点検・評価報告書

2024年度

2021年度より実施している「全学共通教育情報リテラシー科目プログラム」において、2022年度から「データサイエンスとICTの基礎」を全学必修科目として新設した。「実学」教育を重視する本学にとって、これからの社会において必要とされる、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識・技能は文理問わず全ての学生に不可欠な能力かつ、不可欠な基礎教育であると位置付けている。2024年度の実施内容を自己点検・評価し、今後の本学における教育改善を継続的に行う。

2024年度の共立女子大学・共立女子短期大学「全学共通教育情報リテラシー科目プログラム」の自己点検・評価は次のとおりである。

点検・評価項目	点検・評価結果
全学共通教育情報リテラシー科目プログラムの履修・修得状況	受講者毎の出席状況や課題の提出状況はLMSで把握するとともに、毎回の授業で到達度や満足度を測定するアンケートを実施して学生の学修状況を把握している。 2024年度のリテラシーレベルについてはオンデマンド授業を計14クラス（前期10クラス、後期4クラス）開講し、全学必修として実施した。履修者は大学が1,742名、短期大学が214名、単位修得者（修了者）は大学が1,373名、短期大学が156名であり、単位修得率は大学が79%、短期大学が73%であった。 昨年度に続き、学生への支援充実および学習効率の向上を意図するものとして、授業実施期間の平日には週2回、1回あたり2時間のリアルタイム質問会を実施した。 また、リテラシーレベル構成科目である「データサイエンスとICTの基礎」が必修科目であることに鑑み、履修機会の確保を目的として、今年度より後期に再履修クラスを設置した。
学修成果	形成的評価を適切に実施するために授業においては各回の到達度を測定するアンケートを実施している。形成的評価を踏まえて、授業内容について補足説明やフィードバックを行うこととしている。 履修者のうち835名が回答した授業評価アンケート（回答率42.7%）では、「この授業を受けて、シラバスに掲げられている知識や能力を、どこまで獲得できたと感じていますか。」という設問に対して、826名の学生が「単位修得目標」以上、そのうち94名の学生が「到達目標」以上と回答している。 また、授業に関する感想については「AIとどうやって共存していくかや、コンピュータの歴史や構成ExcelやWordの操作など様々なことを学びました。有意義のある授業だったと思います。」と回答があるなど、今後の生活での有用性を学生が理解できている様子が確認できた。 また、授業内容や授業資料の見直しを実施したことにより、「動画内容がとても分かりやすい」「配布資料が図やイラストつきで分かりやすい」といった意見が増えたことで、学生の理解度向上につながったと考えることができる。

学生アンケート等を通じた内容の理解度	各回でのアンケートの他、授業終了後に総括的なアンケートを実施し、履修者のうち835名がアンケートに回答した。 「この授業を受けて、シラバスに掲げられている知識や能力を、どこまで獲得できたと感じていますか。」という設問では、826名の学生が「単位修得目標」以上、そのうち94名の学生が「到達目標」以上と回答した。 「総合的に判断して、この授業は意義のあるものでしたか。」という設問では、「大いに有意義であった」が277名、「有意義であった」が382名、「やや有意義であった」が144名、「あまり有意義でなかった」が27名、「全く有意義でなかった」が5名であった。回答した学生のうち803名（96.1%）の学生はこの授業に意義を感じながら取り組んだことが確認できた。
学生アンケート等を通じた学修成果	2022年度より「データサイエンスとICTの基礎」は必修科目として実施した。 2024年度のアンケート結果では以下の自由記述が示されており、学修成果が確認できる。 ・これからの社会で必要なスキルが身についたと感じた。 ・データリテラシーの統計の各種技法とデータの集計と分析についてよく理解できた。 ・AI活用、データリテラシー、Excelなど幅広い知識を学び身につけることができた。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	「データサイエンスとICTの基礎」に関しては、2022年度から全学必修化した。また、過年度までの成果を踏まえ、単位取得率の向上に向けた改善活動を実施した。 2023年度からはデジタルバッジを利用した本学独自の認定制度である「Kyoritsuサーティフィケート制度」においてこれまで設けていた「情報リテラシー科目プログラム（リテラシー）」という認定に加え、「情報リテラシー科目プログラム（発展レベル）」を新たに設け、本学の情報リテラシー科目における履修者数、履修率の向上を目指している。
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業との評価	2022年度から「データサイエンスとICTの基礎」を全学必修化しており、数理・データサイエンス・AIに関するリテラシーレベルをすべての学生が身に付けることを目標としてきたが、修了した学生で卒業した学生はまだ少数ではあるが、2023年度短期大学卒業生66名のうち、5名の学生が情報通信系企業に就職している。 また、発展レベルとしては統計に関するより内容や企業・産業界等と連携して実データを活用したPBL（Project Based Learning）を行う発展科目を設定するなど、当該分野に関して知識・技能を更に深め、知識と実践を往還することでより身に付けたことを定着・活用することができるようになる教育プログラムとなっており、社会に出た際に学生が活用できるようになるための学修者本位の教育を目指している。 今後、本プログラムを履修した学生の進路・採用状況等を把握し、点検・評価に活用する。

産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	産業界からのデジタル人材に対するニーズの高まりを受けて、本学が実施している数理・データサイエンス・AI教育について、一般社団法人東京経営者協会より点検・評価をいただいた。 具体的にいえば、社会からのニーズも踏まえた「データサイエンスとICTの基礎」では、数理・データサイエンス・AI教育のリテラシーレベルを学ぶことができる内容となっており、2022年度より全学必修としたこと、数理・データサイエンス・AIを苦手とすることなく、一生涯付き合い、共に社会で生きていくための素養を養成していく狙いがあることについて、産業界のニーズに即した良い取り組みであるとの評価をいただいている。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	モデルカリキュラムの「導入」部分に準じた内容を展開するとともに、事例紹介では、各学部・科の専門科目に関連する分野を中心にして身近で活用されているデータサイエンス事例を紹介することで「学ぶ楽しさ」を理解させている。 また、これからの社会で受ける恩恵、社会で出た際に求められる役割、どのように社会が豊かになるのか、等について紹介することで「学ぶことの意義」を理解させている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	授業評価アンケートを学期末に実施し、学生の評価結果を踏まえた点検・評価および授業改善を恒常的に行っている。 また、各回の授業においてもアンケートを実施し、形成的評価を通じて学生の理解度を把握し、適宜補足説明するなどして理解の底上げを図っている。 同分野が特に苦手な学生に対しては無料のリメディアル教育を案内し、受講を推奨している。 さらに、全学教育推進機構の下に設置されている高等教育開発センターによる対面での学修サポートや、授業期間にはオンライン会議システム（GoogleMeet）を活用したリアルタイム質問会を実施するなど学修成果の獲得に向けた支援を実施した。 これからも、授業評価アンケートの結果、各回のアンケートの結果、リメディアル教育の受講状況等を総合的に鑑みて、より「分かりやすい」授業を実施することを目指す。

リーダーシップの共立
共立女子大学・共立女子短期大学



共立女子大学・共立女子短期大学
KYORITSU WOMEN'S UNIVERSITY / KYORITSU WOMEN'S JUNIOR COLLEGE